

所属	心理学研究科 現代心理学専攻	修士課程	修了年度	2023 年度
氏名	中山健太	指導教員 (主査)	奈良雅之	

論文題目	<b>防衛的悲観主義者の精神的健康に対人行動とレジリエンスが及ぼす影響</b>
------	---

### 本文概要

#### 【問題・目的】

これまで悲観主義者は楽観主義者に比べ不適応的とされてきたが、Norem(2001)により適応的な悲観主義である防衛的悲観主義(DP)が見いだされた。この DP は認知的方略の一つであり、過去高い成績を残しつつも悲観的である方略とされる。DP 者は適応的な楽観主義である戦略的楽観主義(SO)に比べ劣るものの、一般的悲観主義(RP)者に比べ適応的であることが示されている。また、DP は対人場面において援助的な行動傾向が確認されており、このような援助行動はレジリエンスを高めるとされている。これらより、DP 傾向の高さが対人行動に正の影響を及ぼし、対人行動はレジリエンスに正の影響を、レジリエンスは精神的健康に正の影響を与えることが想定される。本研究ではこのモデルの検証、及び各認知的方略における各変数の比較検討を行うことを目的とする。

#### 【方法】

調査対象者：目白大学の大学生 225 名(女性 45 名、男性 180 名、平均年齢 18.9 歳±1.08)を対象に Web 調査を行った。調査内容：①防衛的悲観主義尺度(J-DPQ)(Hosogoshi & Kodama, 2005)24 項目 6 件法、② S-H 式レジリエンス尺度(佐藤・祐宗, 2009)27 項目 5 件法、③GHQ-12(中川・大坊, 1985)12 項目 4 件法、④対人行動尺度(光浪, 2012)19 項目 4 件法。⑤フェイスシート。

#### 【結果・考察】

Hosogoshi & Kodama(2005)にしたがい、J-DPQ の平均得点と判別項目により 4 つの認知的方略群(DP, SO, RP, UO)に分けた。この 4 群において各尺度を比較したところ、GHQ-12 では SO 群が最も高く、次いで DP と RP、最後に UO 群という順に高いことが分かった。S-H 式レジリエンスや対人行動については UO 群が最も低い結果が見られており、DP 群と RP 群に有意差は見られなかった。これは J-DPQ において群分けの基準となる判別項目が一項目のみであったこと、教示文において場面を特定しなかったことで群分けの妥当性が不十分であった可能性が考えられる。

次に、DP 傾向が対人行動に正の影響を与え、対人行動がレジリエンスに正の影響を、レジリエンスが精神的健康に正の影響を及ぼすモデルの検討を行った。その際、J-DPQ は判別項目が 5 以上の場合、平均得点が DP 傾向を示すことから、DP 傾向の指標として J-DPQ を用いた。その結果、十分な適合度が得られず、これまでの研究から DP は精神的健康度が高いことで知られており、DP から GHQ-12 へ直接的なパスを追加し、再度分析を行った結果、概ね問題ない適合度が得られた。しかし、対人行動からレジリエンスへの正のパス、DP 傾向から GHQ-12 への負のパスを除き、有意なパスは得られなかった。DP 傾向が GHQ-12 へ負のパスを示していたが、分散分析の結果から DP 群は UO 群に比べ高いことや先行研究から RP 群よりも適応的とされることから、新たな媒介変数を加えての検討が必要であると考えられる。また、本研究において批判的・自己中心的関わりが DP 群、SO 群において UO 群より高いことが示されており、攻撃的ユーモアを用いて円滑な対人関係を形成している可能性が考えられる。そのため、攻撃的ユーモアを媒介変数として分析することで新たな知見が得られるものと考えられる。